

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第2号 畜産

発行日 平成26年 4月24日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 新播草地の雑草は、刈り払いまたは除草剤を適切に選択し対処します。
- ◆ 牧草未定着の場合、播き直しは秋になりますので、その間の圃場管理を検討します。
- ◆ 飼料用トウモロコシの栽培では、品種選定と基本技術を再確認します。

## 1 新播草地の管理

### (1) 雑草対策

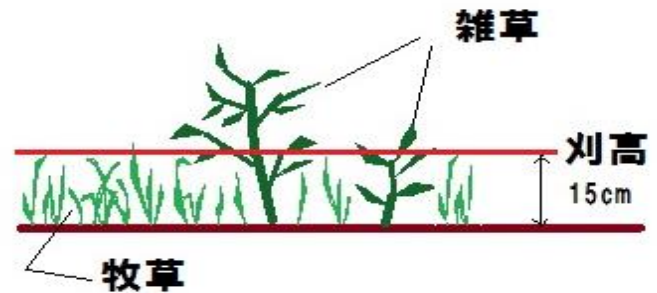
牧草定着株数は確保できているが、雑草が目立つ場合は、次ぎにより対処します。

#### ア 掃除刈り

雑草の成長点を刈ることで、雑草の成長等を押えます。牧草の草丈が 10cm 以上、一年生雑草の草丈が 20~30cm 程度の時期に行います。

刈取り高さが高すぎると雑草が再生してしまい、低すぎると牧草の再生が悪くなります。

根が浅い新播草地で切れない刃で作業すると牧草を引き抜いたり根を傷めるので、しっかり研いだ刃で作業します。



〈 図 掃除刈のイメージ 〉

#### イ 除草剤散布

ギンギンが多い場合、刈り払った草を圃場の外に持ち出す場合は、選択性除草剤を用います。

#### (ア) 一番草収穫前

**新播草地なので、維持草地に使用する場合と薬液量が異なります。**ハーモニー75DF 水和剤はマメ科牧草に薬害が出ること、1回の使用であることにも注意下さい。

### 新播草地で一番草収穫前に使用できる除草剤

使用時期	除草剤名	10a あたり 散布量	対象 雑草	使用 回数	留意事項
新播草地定着後、但し、ギンギン類草丈 20cm 以下、但し、採草 21 日前まで	ハーモニー75DF 水和剤	<b>薬剤</b> <b>0.5~1g</b>  希釈水量 100 リットル	ギンギン類	1 回	1 クローバーに薬害が生じる恐れがある 2 ギンギンの葉が展葉してから散布する 3 調製した薬剤は速やかに散布すること 4 散布に用いた器具類は、使用後に 500 倍の消石灰液で確実に洗浄し、他の用途の薬害にならないようにする 5 散布後 21 日間は採草及び放牧を行わない

#### (イ) 一番草収穫後

一番草収穫後は維持草地での薬液量となります。

#### 一番草収穫後に使用できる除草剤

使用時期	除草剤名	10a あたり 散布量	対象 雑草	使用 回数	留意事項
雑草生育期、但し、採草 21 日前まで	ハーモニー75DF 水和剤	<b>薬剤</b> <b>3~5g</b>  希釈水量 100 リットル	ギンギン類 及び一年生 広葉雑草	1 回	上記の留意事項 (1~5) と同じ

## (2) 牧草未定着の圃場やシバムギなど地下茎型イネ科雑草が繁茂している場合

- ア 牧草の播き直しが必要ですが、雑草との競合を避けるため、播種適期である秋の播種になります。このため、刈り払いや非選択性除草剤の散布で秋の牧草播種に備えます。
- イ 非選択性除草剤の使用回数は2回以内ですので、播き直しのための表層攪拌など圃場準備と作業性、除草剤の播種日同日処理を行う場合なども考え、散布時期と回数を計画します。

## 2 トウモロコシ栽培のポイント

トウモロコシは、エネルギーの高い子実と、消化性の比較的高い繊維を含む茎葉から構成され、飼料価値が優れ、家畜の嗜好性も良く、単位面積あたりの栄養収量が高い粗飼料です。下記の栽培基本技術に基づき単位収量の向上に努めましょう。

### (1) 品種の選定

収穫時期に確実に黄熟期に達する品種を選択し、収穫時期の作業分散と、気象変動の危険分散を考慮し、早晩性の異なる数品種を栽培します。

### (2) 適切な施肥

堆肥は10a当たり3t、炭カルで200kgを標準とし、投入量に応じて化成肥料を加減します。生の堆肥はタネバエを呼び、発芽不良の原因となるので、播種1ヶ月前に施用し土中で分解を図ります。糞尿の多量還元は、植物体中の硝酸態窒素含量を高め、硝酸塩中毒を引き起こす他、ミネラルバランスが崩れ、家畜の栄養上も問題となるので、窒素とカリが過剰にならないよう注意します。土壤分析や飼料分析を実施している場合はその分析値に応じて施肥量を増減させます。

### (3) 適切な播種作業

トウモロコシは湿害に弱いので、排水の良い畑を準備します。栽植密度は、表1の畦間、株間と栽植本数を参考にして下さい。極早生品種で8,000本、早生品種で7,000本、中生品種で6,500本、晩生品種で6,000本を標準とします。

密植しすぎると雌穂が小さくなりTDN含量が低下するだけでなく、茎が細くなり倒伏にも弱くなります。

播種は霜が降りない時期で、平均気温が10℃になる頃(5月中～下旬)に行います。

播種時にキヒゲン(チウラム剤)を粉衣すると鳥害防止が期待できます。

表1 畦間、株間と栽植本数

畦間 (cm)	株間(cm)			
	17	19	20	22
75	8,000 本/10a	7,000 本/10a	6,500 本/10a	6,000 本/10a

### (4) 雑草の防除

圃場に発生する雑草の種類と発生程度を把握し、適切な除草剤を選択し、散布時期、散布量、使用回数を守り防除に努めます。

砕土(播種床形成)～土壌処理(除草剤)まで期間を空けすぎると雑草が芽吹いてきます。

また、除草剤をしっかりと効かせるために砕土、鎮圧を念入りに実施します。

### (5) 害虫の防除

早期発見が最も重要であり、発生の予想される時期に圃場をよく観察します(前年発生した圃場は特に注意します)。アカザ・タデ類などの幼植物はタマナヤガの産卵を誘発し、発生源となるので、播種後から生育初期にかけて雑草防除を徹底します。

**春の農作業安全月間実施中！** [4月15日  
～6月15日]  
豊作を 無事故で迎える いわたの農業

次号は5月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。